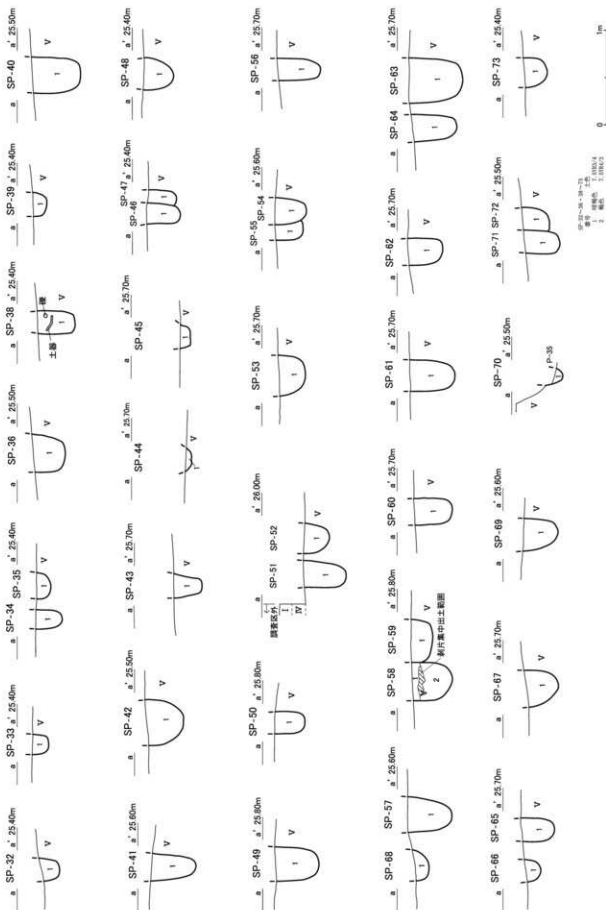
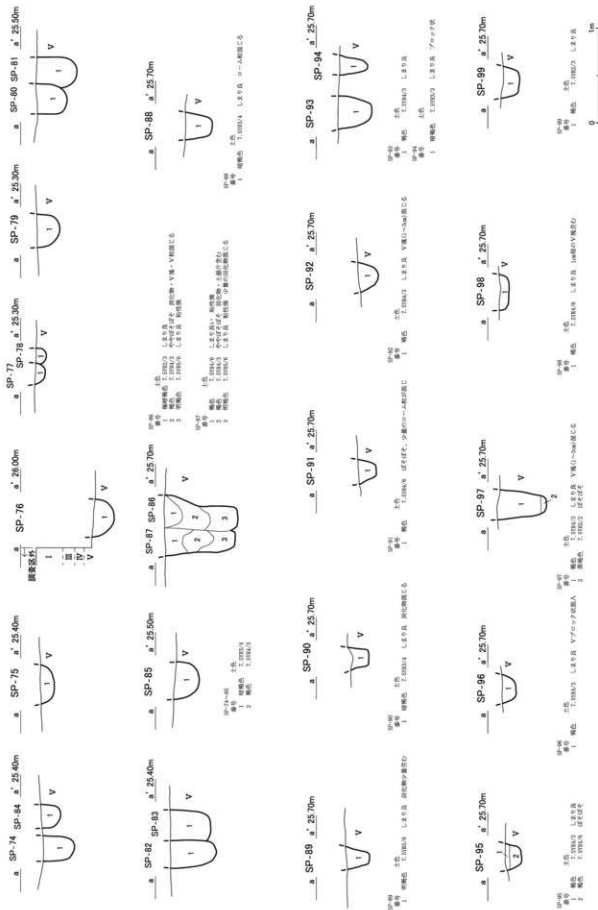


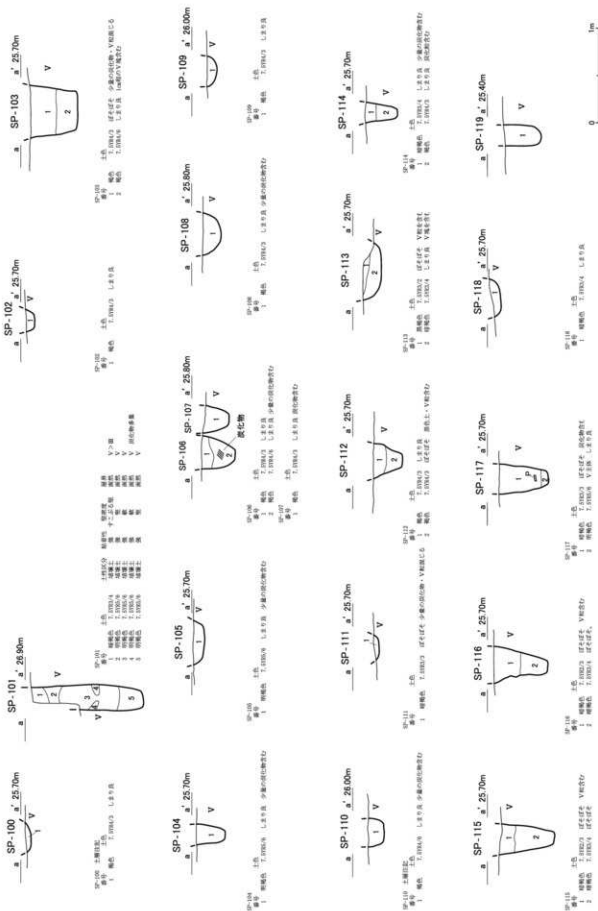


図IV-92 SP-32 ~ 73 土層断面図

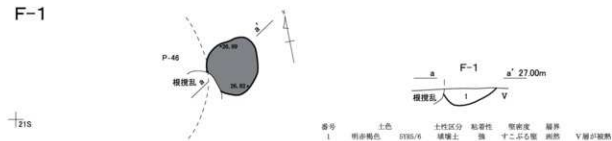
① 土層
 ② 土層
 ③ 土層

0 1m

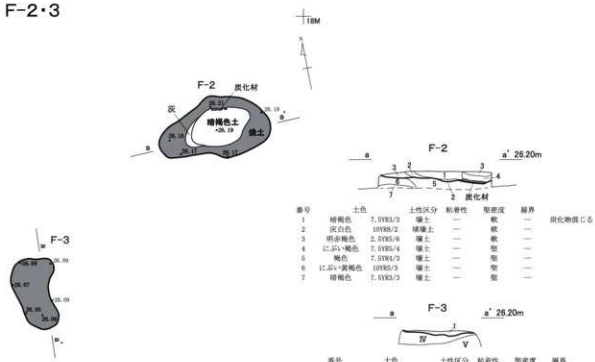




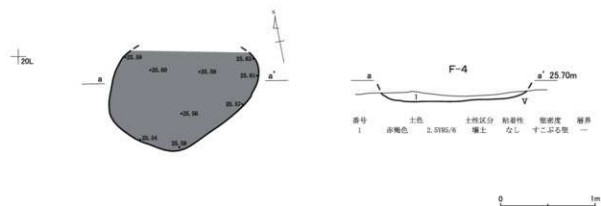
F-1



F-2.3

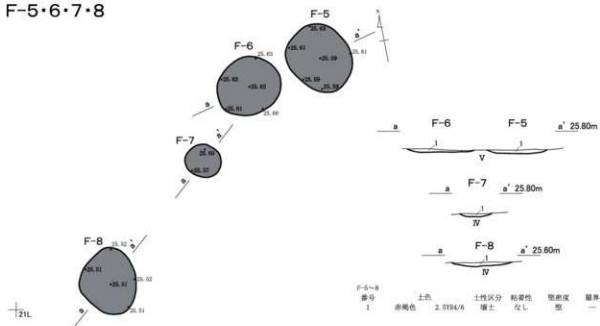


F-4



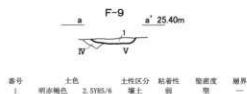
图IV-97 F-1~4

F-5・6・7・8



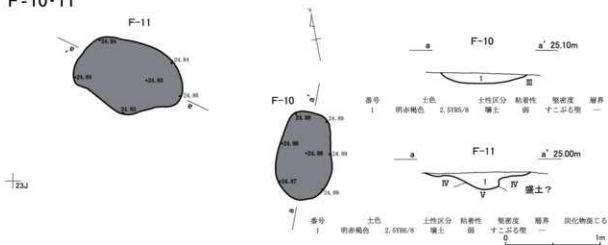
F-9

+22L



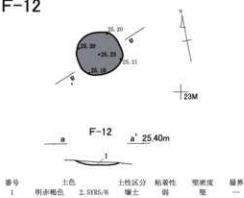
番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	明赤褐色	2. ST35/6	壤土	弱	—

F-10・11

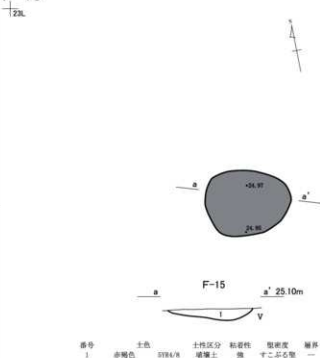


図IV-98 F-5~11

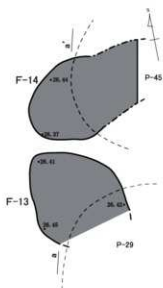
F-12



F-15



F-13・14

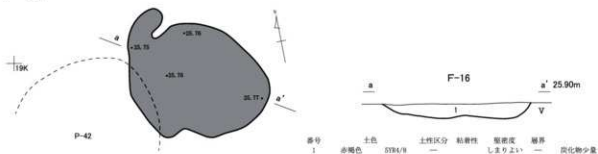


番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界
1	赤褐色	STR4/8	硬土	強	—
2	褐色	7.STR4/4	硬土	強	—
3	赤褐色	STR4/6	硬土	強	—

P-13・14
 上面に炭化物少量

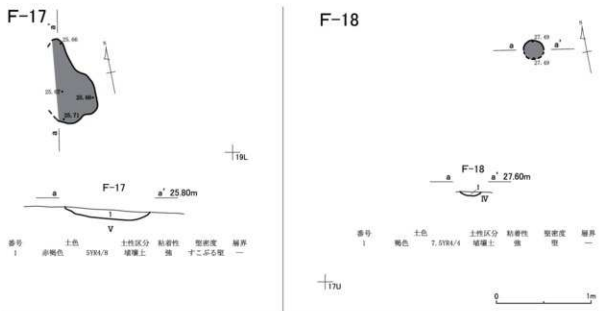
122S

F-16

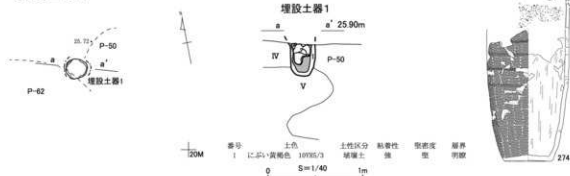


0 1m

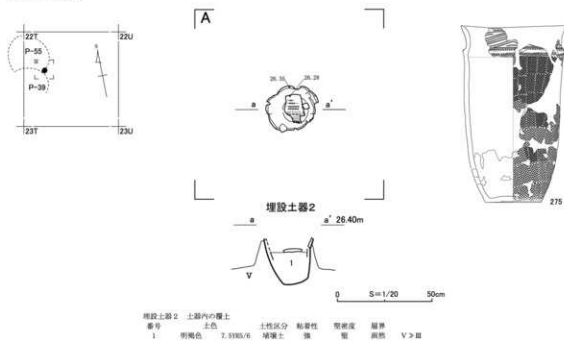
図IV-99 F-12～16



埋設土器1



埋設土器2



図IV-100 F-17・18・埋設土器1・2

ら覆土4層上面でみられ、埋め戻される際に焼土が形成されている。このためP-45より新しい。

盛土遺構周辺のものはMB上位でF-10・11、MC直下のIV層でF-18がみられた。

焼土からは遺物は出土していないが、周辺の遺構や遺物から時期は縄文時代前期後半と考える。

(愛場)

6. 埋設土器

埋設土器1

位置 19 L 規模 0.22/0.32 m (直径/深さ)

確認・特徴 P-50、P-62のトレンチ調査により検出した。P-50の西側開口部をII群b類の深鉢形土器の幅を掘り込んで埋設されていた。円筒土器下層d 2式である。

時期 縄文時代前期後半である。

(袖岡)

埋設土器2

位置 22 T 規模 0.28/0.24 m

確認・特徴 P-39とP-55の近くのV層面で検出した。II群b類の深鉢形土器の幅を掘り込んで埋設されており、口縁部は破損し、一部が土器の内部にみられた。円筒土器下層d 2式である。

時期 縄文時代前期後半である。

(愛場)

埋設土器3

位置 20 L 規模 0.12/0.16 m

確認・特徴 V層面で遺構検出のための精査により検出した。半截したところII群b類の深鉢形土器幅のみを掘り込んで埋設されていた。P-62の上部に構築されており、土器内には擦り切り土器片が2点伴う。土器は円筒土器下層d 2式で、擦り切り土器片は円筒土器下層d 1式である。

時期 縄文時代前期後半である。

埋設土器4

位置 19 R・20 R 規模 0.25/0.43 m

確認・特徴 P-53のトレンチ調査により検出した。P-53の開口部～頸部にかけての充填土に伴い、II群b類の深鉢形土器が正立で埋設されていた。円筒土器下層d 1式である。

時期 縄文時代前期後半である。

埋設土器5

位置 21 M 規模 0.14/0.13 m

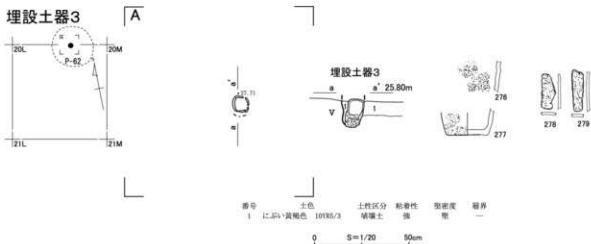
確認・特徴 V層で遺構検出のための精査により、P-82の北東側で検出した。半截したところII群b類の深鉢形土器の幅のみを掘り込んで埋設されていた。円筒土器下層c式である。

時期 縄文時代前期後半である。

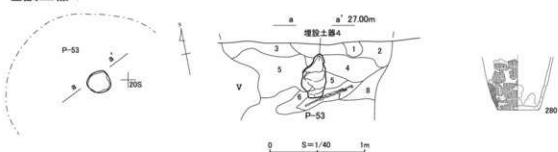
埋設土器6

位置 21 I 規模 0.17/0.21 m

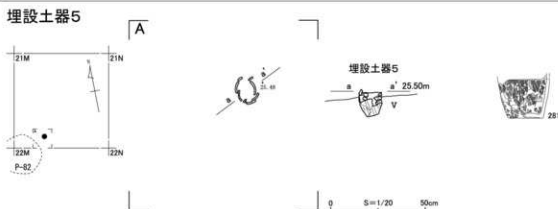
埋設土器3



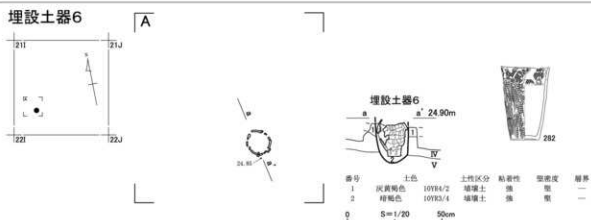
埋設土器4



埋設土器5



埋設土器6



図IV-101 埋設土器3~6

確認・特徴 包含層調査によりⅣ層下位で、土器の平面が検出した。半載したところⅡ群b類の深鉢形土器の幅よりやや幅広く掘り込んで埋設されていた。円筒土器下層c式である。

時期 縄文時代前期後半である。(袖岡)

7. 盛土遺構

MA

位置 18E・18F **規模** 8.50×—/0.22m

確認・調査 包含層調査終了後、調査区北側境の土層断面でⅢ層上面に褐色土層を確認した。褐色土層は長さ8m以上で、最も厚いところで22cmであった。これを盛土遺構と考え、土層を記録した。褐色土層の上位は耕作土Ⅰ層で、上部は削平されているようである。主体部は調査区外の北側にあると考えられる。

土層 土層は2層に分層した。いずれもⅤ層主体で、炭化材が混じる部分がある。

時期 周囲包含層からは土器はⅡ群b類土器が主体的に出土しているため、縄文時代前期後半と考える。(愛場)

MB

位置 21～23D・E・F・G・H 22・23I・J・K

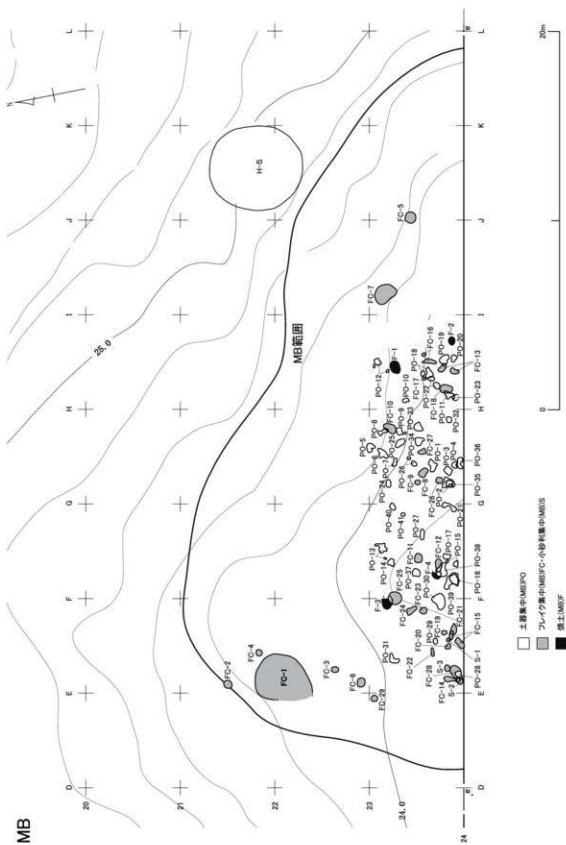
規模 (57.4)×(22.2)/0.82m

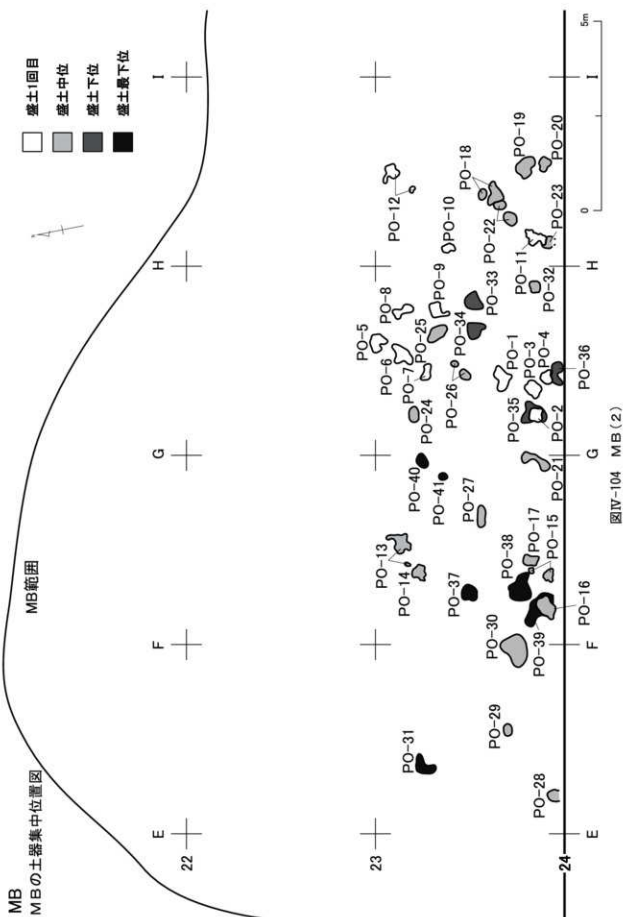
確認・調査 表土除去後、包含層の25%調査で黒褐色を呈するⅢ層土を掘り下げていたところ、平面的な土色が褐色～黄褐色土になり、縄文時代前期後半の土器や剥片等の遺物や焼土を検出し、盛土遺構の存在を確認した。盛土を検出した周辺は、東側にボンクレ川、西側に無名沢に挟まれた沢状のやや窪んだ地形となっており、調査区南側に盛土層が最も厚く堆積していると予想された。調査区境の南壁に沿ってトレンチ調査を行ったところ、盛土は広範囲にあり、層厚は最も厚いところで80cmあることが判った。土層断面を見ていくと、Ⅲ層は盛土遺構を挟み上下に分かれており、盛土遺構の上面にあるⅢ層をⅢa層、盛土遺構の下位にあるⅢ層をⅢb層とした。

調査は、範囲確認のためのサブトレンチと、先に行った25%調査壁の土層断面をもとにⅢa層を除去し、盛土遺構の上面を検出し、その後掘り下げを行った。盛土遺構中の付属遺構は焼土(MBF)を4か所検出した。頁岩主体の剥片のまとまりを剥片集中(MBFC)とし、写真撮影と範囲を記録し取り上げた。復元可能と思われる土器のまとまりを土器集中(MBPO)とし、写真撮影と実測や範囲、層位を記録し、取り上げを行った。このほか小砂利のまとまり(MBS)を3か所検出し、同様に記録を行い取り上げた。盛土遺構は調査区外南側へ沢地形を埋めるように続いており、盛土の北側を調査したことになる。盛土の北東側ではP-83・84・96、東側では小土坑SP-142～144・147～159・162が範囲内にみられ、H-6は北東側に近接する。

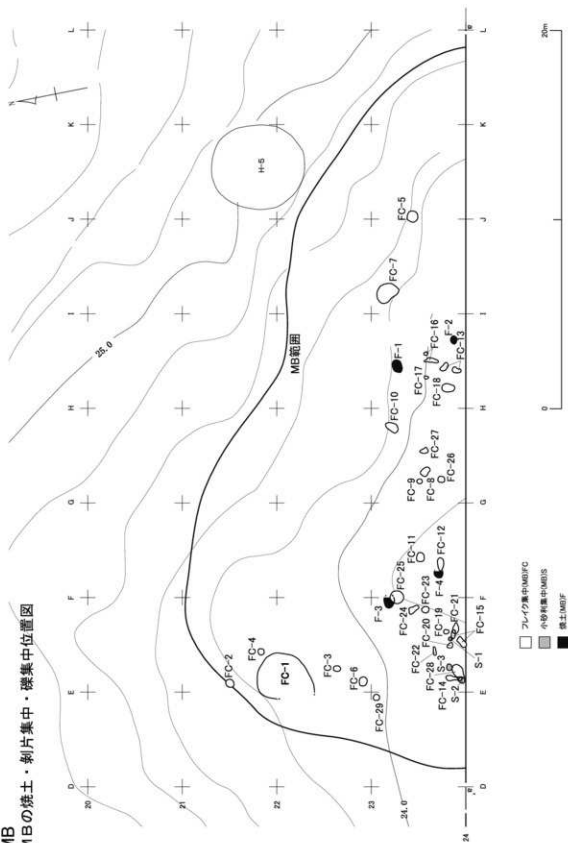
土層 盛土遺構は41層に分層した。盛土1層は黒褐色から暗褐色を呈し、盛土東端からグリッドラインI付近までみられる。ここより西側のグリッドラインE付近まではⅤ層ローム質土を多く含む土が厚く堆積していた。

盛土の供給源 18～23R～T区周辺を重機で表土除去後に、Ⅴ層面を精査したところ自然堆積層の平面にまとまりのない乱れと地形の低みを検出した。大型の竪穴住居跡などを想定し、グリッドラインSに沿うような任意のトレンチを南北に設定し、調査を行い、フラスコ状土坑群(P-22・29・31・36・37・39・45・53～55・70等)を検出した。フラスコ状土坑の覆土は黒色土をあまり含まず、Ⅴ層土主体のローム質土が主体のものが多い(各土坑の確認・特徴、覆土参照)。また周辺のフラスコ状土坑の土層断面を見ていくと、





MB MBの焼土・剥片集中・礫集中位置図



図IV-105 MB(3)

自然堆積層であるV層に人為的な乱れ（P-40・図IV-48、P-41・図IV-49）やV層にB-Tm火山灰が堆積しているところ（P-53・図IV-55、P-54・図IV-56）があった。このことから、やや標高の高い調査区東側では、縄文時代前期後半にⅢ層黒褐色土、Ⅳ層漸移層が削平され、フラスコ状土坑群が構築されたと考えられる。MBの盛土は、この範囲の土坑の構築とその周辺の整地に伴う土で、土器や剥片類等とともに沢地形を埋めるように盛土したものと考える。

付属遺構 焼土（MBF）4か所、土器集中（MBPO）40か所、剥片集中（MBFC）29か所、小砂利のまとまり（MBS）3か所を検出した。焼土MBF-1～4はいずれもレンズ状の堆積である。盛土最下層のMBF-4から検出した炭化材で放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。土器集中MBPO-1～41（MBPO-16は欠番）は盛土上位から最下位で、多くは破片のまとまりや横倒しでつぶれた状態で検出した。Ⅱ群b類の主に円筒土器下層式d1式から円筒土器下層d2式が層位的に出土し、変遷が捉えられた。剥片集中MBFC-1～29は盛土上位から最下位で検出した。MBFC-1は広範囲に剥片のまとまりがあり、剥片が89,668点と最も多く出土した。半分に割れた両面調整石器が多く出土した。土器集中、剥片集中ともに盛土のグリッドライン23より南側、Fラインより西側の沢地形の低みにまとまっていた。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器29,518点、焼成粘土塊34点、石鏃29点、石槍・ナイフ8点、両面調整石器139点、石錐6点、つまみ付きナイフ27点、寛状石器3点、スクレイパー112点、Rフレイク129点、Uフレイク25点、剥片238,197点、石核167点、磨製石斧10点、たたき石44点、すり石5点、北海道式石冠2点、扁平打製石器32点、砥石1点、石錘2点、石皿3点、原石79点、加工痕ある礫17点、礫10,358点、石製品4点の計278,951点出土した。剥片が突出して多く、Ⅱ群b類土器、礫が続く。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層b～d2式で、その中でも円筒土器下層d1～d2式が主体である。土器や石器の器種については、それぞれ点数分布図を作成した（図V-1～4）。

時期 出土したⅡ群b類土器から縄文時代前期後半である。盛土最下層のMBF-4の炭化物（Kor-13）の放射性炭素年代測定を行ったところ、¹⁴C年代が4,790 ± 30yrBPという結果が出た。樹種はクリである（付篇参照）。（袖岡）

MC

位置 13 T・13 U・13 V・14 U・14 V・15 U・15 V・16 U・16 V・17 U・17 V

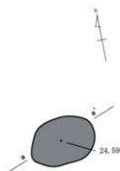
規模 (24.30) × (9.15) / 0.38 m

確認・調査 補償道路北側地区で、重機により表土を除去したところ、表土から15 cm程度で褐色～黄褐色を呈する土層が広範囲で検出され、これを当初V層面と考えた。調査開始時、鋤鎌等により表面を削ったところ遺物が多く出土した。盛土遺構の可能性を考え、13 U～17 Uライン、14 U～14 Vライン、15 U～15 Vライン、16 U～16 Vラインなどにトレンチを設定し、掘り下げた。Ⅲ層黒色土がほとんど存在せず、V層の上面にV層主体の褐色土、黄褐色土が堆積している状況や堅穴住居跡H-6・7を埋めている状況が捉えられた。遺物も土器集中、剥片集中など多量に出土し、盛土遺構（M）Cと判断した。規模は南北方向が約24 m、東西方向が約9 mで、H-6とH-7周辺から西側（ボンクレ川側）調査区外へかけてが、層厚が30 cm以上と厚く、遺物も多い。盛土南側の範囲は急速に薄くなり不明瞭であるが、H-3の覆土10・11などの褐色土が盛土と考えれば、南側はH-3までの範囲と考えられる。土器集中MCPO-5から出土した炭化材は、サンプルを採取し、炭化樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。

土層 堅穴住居跡外の盛土は7層に分層した。すべてV層主体の土層で、盛土3・4層など褐色土が主体的にみられる。またH-6の覆土1～6層、H-7の覆土1～7層も盛土と考えられ、堅穴住居跡の窪みを埋めてから、さらにその上と周辺に20 cm程度盛土される。また調査区西側端部分では崖へと傾斜するⅢ層が

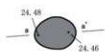
MBF-1

23H



番号	土色	STRS/8	土性区分	粘着性	帯硬度	風化物微量含む
1	明赤褐色		硬壤土	強	軟	

MBF-2



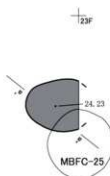
24I



番号	土色	STRS/6	土性区分	粘着性	帯硬度	風化物微量含む
1	赤褐色		硬壤土	強	軟	

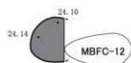
MBF-3

23F



番号	土色	STRS/8	土性区分	粘着性	帯硬度	風化物微量含む
1	明赤褐色		硬壤土	中	軟	

MBF-4



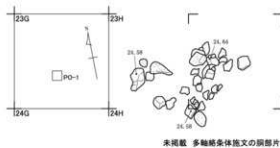
平面図のみ

24F

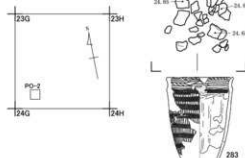


図IV-107 MB(5)

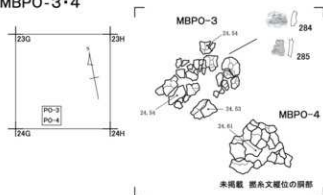
MBPO-1



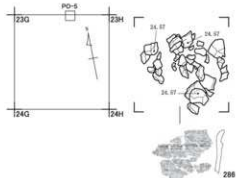
MBPO-2



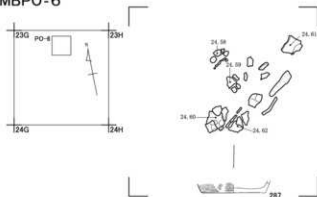
MBPO-3.4



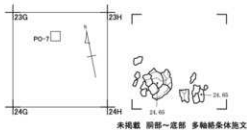
MBPO-5



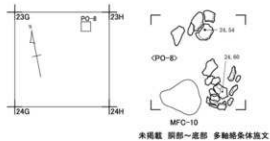
MBPO-6



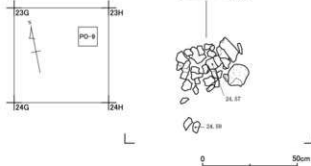
MBPO-7



MBPO-8

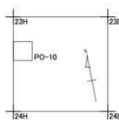


MBPO-9

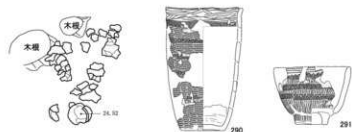


图IV-108 MB(6)

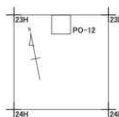
MBPO-10



MBPO-11



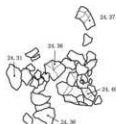
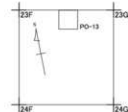
MBPO-12



米掲載 帯朱文様位の胴部～底部



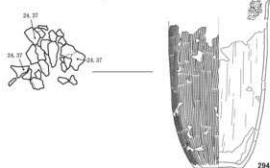
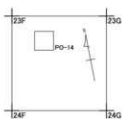
MBPO-13



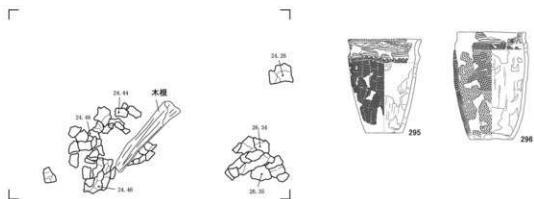
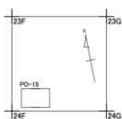
0 50cm

図IV-109 MB(7)

MBPO-14

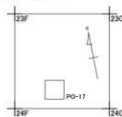


MBPO-15



<MBPO-16欠番>

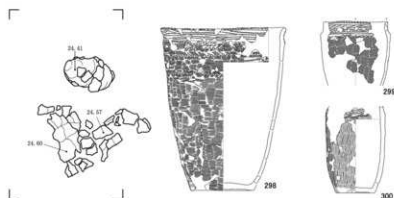
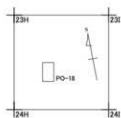
MBPO-17



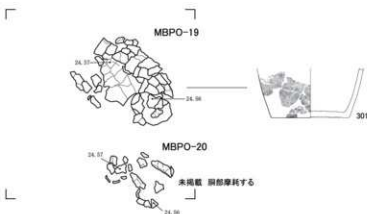
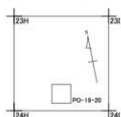
0 50cm

図IV-110 MB(8)

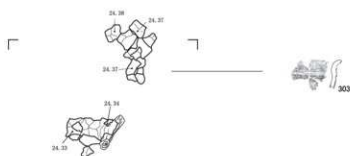
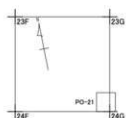
MBPO-18



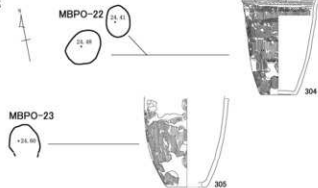
MBPO-19・20



MBPO-21



MBPO-22・23



0 50cm

0 1m

図IV-111 MB(9)

MBPO-24・25・26

23G



MBPO-24

24, 21
24, 29



MBPO-26

24, 40
24, 36

MBPO-25

24, 63
24, 39
24, 35



MBPO-27

24, 65
24, 67



MBPO-28・29



MBPO-29

24, 342

MBPO-28

24, 65



24E

24G

MBPO-30

24, 39
24, 35
24, 39



MBPO-31

23E

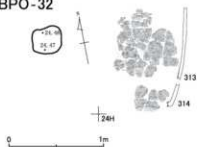
24, 39
24, 35
24, 30

未掲載 口縁部縄文様位 摩耗する

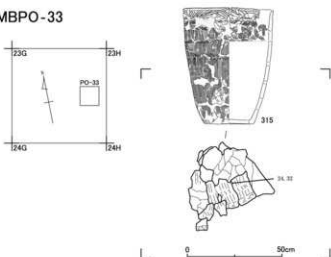
0 1m

図IV-112 MB (10)

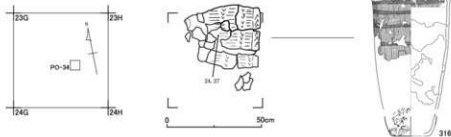
MBPO-32



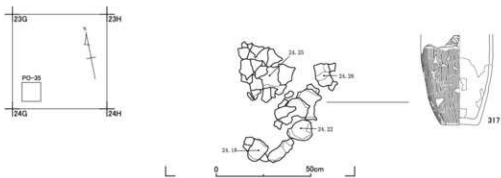
MBPO-33



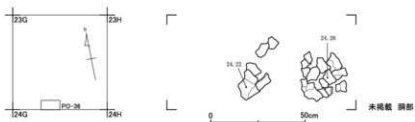
MBPO-34



MBPO-35



MBPO-36



図IV-113 MB (11)